

令和7年度 授業改善推進プラン < 技術家庭 家庭分野 >

練馬区立大泉西中学校

	課題分析	授業改善策	評価
1年	<p>○食生活分野に関して、五大栄養素や食品分類など小学校での既習事項はおおよそ身につけている。しかし、その知識や学んだ技能を生活の中で活用したり、応用したりする機会が少なく、実践的な知識の習得につながっていない。</p>	<p>○生徒自身の日常生活での経験や既習の知識を結び付けて考えられる発問や教材を工夫する。</p> <p>○調理実習で扱った内容を家庭実践とつなげる課題を設定し、家庭で技能を活用したり、さらなる興味の広がりを促したりする機会を増やす。</p>	<p>○生徒が学習内容と自身の生活を振り返って考えられる発問を工夫した。また、教員自身の経験を踏まえて、教科の内容と生活が密接に関わっていることを意識づけられるようにした。</p> <p>○調理実習で扱った内容を家庭実践とつなげる課題を設定し、より実践的な技能の定着を目指した。</p>
2年	<p>○衣生活分野に関して、裁縫の基本技術の定着度が低めである。授業内で学んだ内容を、普段の生活と結び付けて考える習慣があまりなく、知識が独立してしまっている。また、用途に応じた技能の使い分けができない。</p>	<p>○生徒が自身の課題に応じて個別に手順や方法を確認できるような資料の提示方法を工夫する。</p> <p>○生活に関連するものの製作や内容を扱う機会を増やすことで日常での必要感を生徒が持てるようにする。</p>	<p>○生徒が自身の課題に応じて個別に情報にアクセスできるよう、全体の見通しを持たせる資料と授業各回に細分化した情報の提示を使い分けて工夫した。</p> <p>○生活に関連するものの製作や内容を扱う機会を増やし、生活の中で活用できる技能の定着を目指した授業を行った。</p>
3年	<p>○家族・家庭分野に関して、1学期に扱った「幼児」の内容について、基本的な知識は身につけている。それを踏まえて、実際に関わる対象としての「幼児」への理解と実践的な視点で考える力の習得が課題である。</p>	<p>○動画や資料など視覚情報を積極的に活用し、生徒が知識を身近に感じられるよう工夫する。</p> <p>○製作や実習を通して、生徒が体験的に学べる機会を多く設定する。</p>	<p>○視覚情報の活用が効果的に行えていなかった。「幼児生活」は生徒が必ず通ってきた道ではあるが、身近な題材とは言えないため、生徒がより身近に感じられる工夫を再検討する。</p> <p>○製作や実習を通して、生徒が体験的に学べる機会を可能な限り設定できた。</p>